

## 二宮町立二宮小学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、  
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(2年次)

### 1、実践の目的

学習活動において「主体的・対話的で深い学び」を通して、二宮町が育みたい汎用的な資質・能力を育成したい。そのために小学校で身に付けた資質・能力を中学校に引き継ぎ、発展させることが必要である。そこで義務教育9年間を見通して、小・中学校が共通性と一貫性のある指導・支援を行うことが不可欠であると捉えた。このことにより、小・中学校の指導・支援がぶれることなく資質・能力を育成できると考えた。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう力 人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

また、児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と思えるのは所属する集団で「自分のよさを発揮できていること」言い換えれば「自分にはよいところがあると思える」ことが重要な要素と考えられる。このように一人一人の児童生徒がかけがえのない存在として認められている必要がある。そのためには小・中学校を問わず「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」に前述と同様、共通性と一貫性を持って取り組む必要がある。このことが「学びに向かう力」の基盤づくりにつながると考えた。

以上2つを実践の目的とした。

### 2、実践の内容

#### (1) 5校統一の講師と研究の手引き

研究を推進するに当たり共通性と一貫性をもって研究に取り組めるように、二宮町5校統一の講師として教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を迎え、各校で行われる校内授業研究会に事前検討会を含めて指導・助言を仰いでいる。また講師監修のもと研究の手引きを作成し、全ての先生方に配付し、それに基づいて研究に取り組んでいる。



#### (2) 研究授業、研究協議の様子

9月に行った5年生社会科「これからの食料生産」の授業では、まだ児童に意見を全体の場で言うことへの不安が感じられた。挙手による児童同士の意見のつながりが少なく、6つの手立てにある『相互指名』『ハンドサイン』による活発なやりとりに課題が残った。研究協議では、まずは発言しやすい受容的な雰囲気づくりが大切であるという点が、職員全体で共通認識された。



1 1月に行った3年生社会科「火事から町を守る」では、クラスの前向きな雰囲気、授業からも伝わり、友達の意見を知るためにノートを見て回ったり、グループで話し合いをしたりと、児童自身が自信をもって授業に臨んでいる様子が見られた。



研究協議では、既に出た意見をもう一度発言しても受容する、あたたかい集団になっていることが成果として挙げられた。一方、発言が教科書に書かれた事実の出し合いに留まっているため、深い学びにつながる話し合いにすることが課題として出された。



1月に行った1年生体育科「おにあそび」では、どう動いたら鬼からうまく逃げられるかという課題に対して、児童が動作化したり、それを見た児童や教師が言語化したりして、学級に伝えていく活動を行った。意見を伝える時間と体を動かす活動の時間をどう確保するかが課題として挙げられた。

### 3、実践の成果

#### (1) 教師の変容

児童の意見を待つ姿勢や発言を促す声かけ、意見を見やすくまとめる板書づくりなど、意見をつなげて話し合いの授業を行っていくという意識が浸透した。また研究授業・研究教科だけでなく、日ごろの授業や学校生活全般が、授業づくりにつながっていくという認識が深まった。

#### (2) 子どもの変容

三度の研究授業を行っていく中で、友達の意見を聞こうという児童の姿が見られ、友達の発言を温かく受け入れる雰囲気が少しずつ広がっているように感じられた。また、学級の一員として自らの意見を伝えたいという児童も増えたように感じる。

### 4、今後の展開

#### (1) 残された課題

教科書に書かれた事実の出し合いだけでなく、自らの経験や考えを伝えたり、友達の意見と比べて質問をしたりする話し合いを通して、新たな考えをつくり出す授業を今後目指していく。

#### (2) 今後の研究について

道徳を中心として、話し合いができる全教科を活用して、引き続き話し合いでの深い学びを目指していく。そのために、学級経営を通じた受容的な集団づくりも合わせて考えていくことが大事と認識された。